

第 54 回名古屋まつり

10月11～12日に名古屋まつりが開催され、目玉の「郷土英傑行列」を見に伏見まで出向いた。信長・秀吉・家康の三英傑が足軽隊など700人余りを従えて市内中心部を練り歩くもので、広小路通りは多くの見物客で一杯であった。三英傑などのパフォーマンスに写真を撮る人も多く、いつもと違う雰囲気を感じられた。



2010年は名古屋開府400年にあたる。1610年（慶長15年）から徳川家康による名古屋城築城が始まり、その後に清洲からの引越し（清洲越し）が行われ、名古屋のまちづくりが本格化する。戦後復興の時代から開始され、54回を迎える英傑行列も、名古屋ブランドの一つ「近世武家文化」発信の一大イベントといえよう。

今回、大学から伏見に向かったのは「近世武家文化」もさることながら、車が全面規制され「歩行者天国」になった広小路通りを見たかったからだ。それと大須大道町人祭にも足を伸ばすつもりだった。車が通らない広々とした通りの真ん中に立ち止まると、じつに気

持ちが良かった。名駅や栄の方をまっすぐ眺めることができ、通りの緑もなかなか



きれいだった。例の歩道を拡幅する広小路ルネサンス構想を考えながら、伏見から歩いて大須に向かった。

（2008年11月6日 記）